

大型機械の導入が飛躍の鍵！ゼロから地域に頼られる担い手へ



100馬力トラクターと赤塚さん

経営概要

令和4年
経営発展支援事業

◆氏名・所在地

赤塚 啓希 茨城県八千代町

◆経営開始

令和4年4月

◆経営規模

作付面積36.3ha

水稻22ha、加工用ばれいしょ2.3ha、小麦5ha、
作業受託7ha

◆従業員数

家族労働3名、臨時雇用1～3名

「地元の農地を守りたい」 地域への思いが原動力の独立就農

赤塚啓希さんは、八千代町で水稻や小麦、加工用ばれいしょを中心とした普通作農業を営む認定新規就農者です。農業法人での勤務を経て、2022年に独立。経営発展支援事業を活用して大型の機械を導入することで、地域の農地を守る「担い手」として迅速な規模拡大を実現しています。

赤塚さんは2009年から農業法人に勤務し、農場長として生産管理やJGAP指導員の資格取得など、確かな技術を磨いてきました。農業法人での勤務の傍ら、実家の稻作の手伝いから農業を始めましたが、近隣農家から「うちの田んぼもお願いしたい」といった声が年々増加。作付面積が16haに達した際、兼業での限界を感じ、本格的な独立と経営基盤の強化を決意しました。「地元で離農する農家が増えるなか、この土地を耕作放棄地にしたくない」という強い想いが、大規模普通作経営への発展の原動力となりました。

経営発展支援事業の活用で、作業効率化と規模拡大を実現

独立にあたり設備投資に係る経費を試算したところ、トラクターやコンバイン、乾燥機などに1億円近い資金が必要となることが分かりました。そこで、赤塚さんは初期投資の負担を軽減し経営を早期に軌道に乗せるため、県の普及センターや町の協力を得て「経営発展支援事業」を活用。100馬力の大型トラクターとロータリーを導入しました。

100馬力のクローラー型トラクターの導入により、深い水田でも効率的な作業が可能になったほか、その高い牽引力を活かし、畑においても大型作業機による効率的な作業が実現しました。その結果、導入前に比べて単位面積あたりの労働時間を大幅に削減することに成功しました。さらに、1年を通じた農作業スケジュールの具体化が可能になり、心身ともに余裕を持って経営に向き合える環境が整いました。「この事業による投資がなければ、今の規模拡大のスピードは実現できませんでした。適切な機械の導入が規模拡大のカギになりました」と赤塚さんは語ります。

人とのつながりを大切に、所得2,000万円の目標へ

現在、赤塚さんは水稻22haを中心に、計36.3ha（作業受託含む）を管理するまでになりました。いばらき農業アカデミー「経営スタートアップ講座」での学びや、認定新規就農者として青年等就農資金の融資を活用するなど、公的支援をうまく活用しながら経営の安定化を図っています。

赤塚さんは「全ては人とのつながり」だと強調します。独立当初は購入した中古機械がすぐに壊れてしまい出費がかさむなど苦労した経験もありましたが、勤務していた農業法人の社長や地域の組合、関係機関とのコミュニケーションを欠かさず、機械の譲渡や新しい地主の紹介を受けるなど、地域ネットワークが経営を支えています。今後は、水稻のさらなる拡大やばれいしょの契約販売先の拡大を進め、所得目標2,000万円の達成を目指しています。

「具体的なビジョンを持ち、積極的に地域へ飛び込むことが大切」と語る赤塚さん。未来を見据え、地域を支える担い手として、更なる成長が期待されています。

事業で導入した機械等

トラクター（100ps）1台、ロータリー 1台



導入したトラクターとロータリー

経営の推移

| | 就農時 (R4) | 現在 (R7) | 今後の目標 (R14) |
|-------|-------------|--------------|----------------|
| 作付面積 | 16ha | 36.3ha | 50ha |
| うち、水稻 | - | 22ha | 35ha |
| 売上 | 800万円 | 6,000万円 | 8,500万円 |
| 販売先 | 卸売業者、JA等 | 卸売業者、JA、飲食店等 | 契約販売先のさらなる拡大 |